

# 三國志が よくわかる 事典

知的生きかた文庫

三笠書房

この英雄、この知略、この攻防を見よ！

守屋 洋  
監修



守屋 洋（もりや・ひろし）

一九三二年、宮城県生まれ。東京都立大学  
中国文学科修士課程修了。現在、中国文学の  
第一人者として著述、講演等で活躍中。

主な著書に『孫子の兵法』、『説得力の極意』  
『兵法三十六計』の二冊で『三国志』英雄  
のすべてがわかる！『孫子の兵法』がわか  
る本』、監修に『三国志』男の頭の使い方  
『孫子の兵法』の使い方『マンガ』三国志  
（以上三笠書房刊、\*印〈知的生きかた文庫〉）、  
『三国志の人間学』『強者の管理学 韓非子』  
（PHP研究所）、『貞観政要』（徳間書店）、  
『近思録の読み方』（日本経済新聞社）、『中国  
古典の人間学』『十八史略の人物列伝』（プレジ  
デント社）など多数がある。

## 知的生きかた文庫



〔図説〕三国志がよくわかる事典

監修者 守屋 洋

発行者 押鐘富士雄

発行所 株式会社三笠書房

郵便番号 二二〇〇〇四

東京都文京区後楽二二三一七

電話 〇三三六四二二六（営業部）

〇三三六四二二八（編集部）

振替 〇〇三三〇一八一三〇九六

印刷 誠宏印刷

製本 宮田製本

© Hiroshi Moriya

Printed in Japan

ISBN4-8379-0983-3 C0120

落丁・乱丁本は当社にてお取替えいたします。  
定価・発行日はカバーに表示してあります。

# 〔図説〕三国志がよくわかる事典

---

守屋 洋 監修

三笠書房



## 監修のことば——『三国志』を知りつくす二つの視点

『三国志』の人気はいつこうに衰えないようだ。しかも、そのファンは老若男女にまたがり、幅広い層に支えられている。そういう意味では、まことに珍しい本である。

中国に「青年報」という新聞がある。いつか東京特派員の方が拙宅に見えて、取材を受けた。

「日本でも三国志がずいぶん読まれているようだが、いったい、どんな読まれ方をしているのか」

というのである。

私はおおむね三つのことをあげた。

第一は、登場人物の魅力である。個性豊かな人物が入れ替わり立ち替わり登場し、あの広い大陸を舞台に、所狭しと暴れまくる。かれらはいずれも人間の情念をむき出しにして、潑刺はつちうと動き回っている。それにふれると、なにがしか解放感のようなものが味わえるのではないか。

とくに日本は学校も企業も管理社会である。狭い世界で息苦しい毎日を送っている人々にとって、かれらの伸び伸びとした生き方はいつそう共感を呼ぶのでは

ないかと思われる。

第二は、生き残り競争である。『三国志』は、三つの国がそれぞれに知恵をふりしぼって、生き残りの競争に鎬<sup>しのぎ</sup>を削った時代である。その点、今の日本も厳しい競争社会であって、似通っている面が少なくない。とくに企業においては、どの業界も競争が激しく、生き残りに苦勞している。『三国志』から学ぶべきことはたくさんあるし、現にまたそういう読まれ方をしている面もあるのではないだろうか。

第三は、権謀術数である。よかれあしかれ中国は権謀術数の国である。とくにそれが集中的に駆使されたのが、『三国志』の時代であった。私ども日本人は単純というか正直というか、そういうものを苦手としている。この問題についても『三国志』は恰好のテキストになっているのではないか。

こんなふうに答えたことを記憶している。

ところで、一口に『三国志』といっても、たくさん本がある。とくにこの数年来、ブームに乗った形で、次から次へと出版されてきた。その傾向は、現在なお続いているといってよい。十数年前、私たちが『三国志』に目を向けた時には、これほどまでのブームになるとはまったく予想もできなかった。

ただし、『三国志』関連の本がたくさんあるといっても、おおざっぱに次の二つに分類することができる。

## 一、小説の『三国志』

## 一、実録の『三国志』

このうち、一般の読者が手にしてきたのは、ほとんど小説系統の『三国志』であつた。少なくとも今まではそういう傾向が強かつたといつてよい。

ところがここにきて、その傾向に変化の兆しきざしが現れてきた。「小説ではこう書かれていなければならないけれども、実際はどうだったのか」と、小説から実録のほうへ読者の目が向かつてきたのである。

それだけ『三国志』に対する関心が深まつたということかもしれない。

そこで本書では、もっぱら正史の『三国志』に資料をおおぎ、もっぱら実録によつてまとめてみた。まず第一部では、主な戦いを取りあげて『三国志』の流れをたどり、第二部では、トップと参謀のからみ合いに焦点をあてた。そして第三部では、主要人物の裏話をまとめ、第四部は、人物事典とした。いわば、『三国志』アラカルトをめざしたのが本書である。

執筆には、気鋭の中国文学者、丹羽隼兵・竹内良雄・山谷弘之の三氏があたつた。

必ずや読者に満足していただけるものと信じている。

監修のことば——『三国志』を知りつくす三つの視点 3

## 《第一部》二国の興亡 英雄かく戦えり!!

19

序章 乱世の幕開け——黄巾の乱勃発！（一八四〇～一八九九年） 20

外戚vs宦官——泥沼の戦いが始まった！ 20

**黄巾の乱**——民衆の心をつかむのは誰か？ 21

歴史のオモテ舞台に躍り出た英傑たち 23

◆三国志ミニ人物事典 25

一章 反董卓グループ、頭角を現す男の条件（一八九〇～二〇〇年） 27

辺境の野生児、董卓登場 27

実権を掌握した董卓と反董卓グループの蜂起 28

最強の部隊に果敢に向かった曹操と孫堅 31

王允の「連環の計」——呂布に董卓暗殺を！ 33

反董卓連合軍——それぞれの思惑 34

界橋の戦い (一九一年) 袁紹、公孫瓚を破る 35

兗州争奪戦 (一九四年) 曹操、百余日におよぶ死闘 36

徐州を託された劉備、ついにくびり殺された呂布 38

呂布の最期——裏切り者は必ずこうなる！ 40

呂布、袁術の死で迎えた五強の時代 40

劉備の失態！ 器量は曹操の方が上？ 41

白馬の戦い (二〇〇年) ここで見せた関羽、男の意地 43

延津の戦い (二〇〇年) 名将文醜を失った袁紹 44

## 二章 官渡の戦い——曹操と袁紹、最後の決戦 (二〇〇～二〇一年) 46

曹操の決断が、この戦いの節目だった！ 46

戦いの流れを一気に変えた許攸の寝返り 48

〈図説〉官渡の戦い (二〇〇年) 49

殺された袁紹軍の兵士八万！ 52

### 三章 曹操軍南下、劉備に迫る危機（二〇一～二〇八年） 53

髀肉の嘆——劉備、荊州の劉表のもとへ 53

諸葛亮、徐庶との出会い 54

諸葛亮、天下の情勢を分析 55

曹操、華北平定！ 最大の實力者にのしあがる 58

劉表の死——そして降伏 59

長阪の戦い（二〇八年） 九死に一生を得た劉備 60

### 四章 赤壁の戦い——孫権・劉備同盟（二〇八年） 63

孫権の謀臣・魯肅が狙った策とは？ 63

諸葛亮の熱弁、三分の計を語る！ 64

孫権の決意——主戦論が降伏論を破った！ 66

黄蓋の献策——曹操に出した偽りの手紙 67

「苦肉の計」——なぜ曹操は黄蓋を信じたか 69

曹操五十四歳、赤壁の戦いに敗れた理由 69

〈図説〉赤壁の戦い（二〇八年） 71

残した火種——荊州を領有するのは誰か 72

## 五章 三国鼎立！ 稀代の英雄、かく戦えり！（二〇九～二二〇年） 73

劉備、孫権の妹を妻に迎える！ 73

劉備入蜀、この時、彼は何を考えていた？ 74

成都開城——劉備、益州の牧となる 76

**荊州争奪戦**（二一五年） 魯肅と関羽、一触即発の交渉 77

劉備、孫権と講和 79

**漢中争奪戦**（二一八年） 出兵の決意をさせた法正 80

「雞肋」——曹操、漢中を断念する 82

呉の最高司令官・呂蒙の策にはまった関羽 83

## 六章 夷陵の戦い——劉備、たじろぐ（二二〇～二二五年） 85

曹操の死 85

劉備、自ら皇帝の位につく！ 86

張飛の死 87

陸遜の戦術、劉備を打ち破る！ 88

〈図説〉夷陵の戦い（二二二年） 89

兵法の定石を無視した劉備 91

諸葛亮、南方反乱軍の征討へ 93

## 七章 街亭の戦い——孔明、痛恨の惨敗（二二六～二三〇年） 95

前哨戦——呉と蜀、魏を挟撃！ 95

諸葛亮の狙いは、実はここにあった！ 96

泣いて馬謖を斬る！——裏目に出た諸葛亮の策 96

◆出師の表 97

〈図説〉街亭の戦い（二二八年） 99

陳倉攻城戦（二二九年） 諸葛亮、万策尽きて撤退 100

魏打倒をめざす諸葛亮の苦闘 101

## 八章 五丈原の戦い——宿命の対決（二三一～二三四年） 103

祁山争奪戦（二三一年） 守りに徹した魏軍の勝利 103

二度目の対決——秋風五丈原 105

〈図説〉五丈原の戦い（二三四年） 107

「死せる孔明、生ける仲達を走らす」 110

## 九章 三国の滅亡——なぜ栄え、なぜ滅びたか（二八〇年） 111

司馬懿、クーデターで実権を握る！ 111

揺るぎない基盤を築いた司馬氏一族 112

蜀の滅亡——命運を担ったもう一人の男 112

劉禪、もはやこれまで！ 114

魏の滅亡、呉の滅亡——英傑死して命脈尽きる時 115

## 《第二部》名参謀、ここにあり!! 117

劉備と諸葛亮——人はこんな男についてくる！ 118

「水魚の交わり」——人望の人・劉備の人間関係術 118

驚くべき信頼感——そこには、一点の私情もなかった！ 120

最高の参謀・諸葛孔明、この男の凄さがここにある！ 121

## 孫権と周瑜・呂蒙——絶対の信頼はどこで生まれる？

123

これだけ凄い参謀が集まったのはなぜか？

123

徹底抗戦を唱え、成功に導いた周瑜のこの一言

123

智・勇ともに備えた名将・呂蒙はこうして育てられた！

125

一兵も失うことなく勝利した呂蒙の謀略

126

## 孫権と諸葛瑾・陸遜——ナンバー2の参謀学

128

主・孫権を感服させた、「最高の答え」

128

これはと見込んだ男は、とことん信頼すべし

129

抜擢された無名の男・陸遜はいかに行動したか？

130

孫権をうならせた陸遜のこのやり方

132

## 曹操と荀彧——黒子に徹してトップを救った男

133

曹操のもっとも大切な「懐刀」として

133

何を利用すべきかを、もっともよく知っていた男・荀彧

134

弱気になったトップへのこの一言が……

134

人材を見抜く目——この男の右に出るものはいない

136

裏方に徹したホンモノの補佐役 136

**曹操と司馬仲達——「敵の心理」を読む達人がいた！** 138

曹操にここまで見込まれた仲達という男 138

曹操政権を盤石にした仲達の策謀 139

当たった曹操の予感——切れすぎる男の恐さ 141

**劉備と龐統——この人間的強さを見よ！** 143

「風采のあがらぬ男」が劉備を動かした！ 143

蜀取りの軍師——劉備の決断を促した三つの方策 144

もし龐統が生きていれば天下は変わった！ 146

**袁紹と田豊——勝つ理由・敗ける理由がここにある！** 148

凡庸なトップをもった田豊の悲劇 148

至強が至弱に負けた明確な理由 149

参謀をめぐる勝者と敗者の分岐点 150

## 《第二部》傑物たち、その素顔と魅力！

153

### 壺

#### 英雄たちのちよつと「意外な」話

154

曹操の祖父は宦官なのになぜ子孫がいる？

154

曹操が、匿ってくれた呂伯奢の家族を皆殺しにした本当の理由

154

曹操は「姿貌短小」、つまりチビだった！

156

曹操はケチで締り屋だった！

156

曹操の幼名は「ウソつき」ちゃん？

157

曹操の正夫人は、娼妓出身のしつかり者

158

あの「桃園の義」は事実ではなかった！

159

巡察官を鞭打ったのは張飛ではなく劉備

159

龐統は劉備の身代わりとなって戦死した？

160

張飛の長阪橋での活躍、本当のところは？

161

張飛の容貌は、魁偉どころか美男子だった？

162

関羽が商売の神様に祀りあげられたのはなぜ？

163

## 式

### 魏・呉・蜀を築いた傑物たちの素顔

171

### 魏 《何があってもものしあがる、度量とロマンをもった男たち》

171

人物批評の大家・許子将の曹操を見る眼 171

論功行賞——人にやる気を起こさせる曹操のやり方 172

曹操もやっていた“トカゲの尻尾切り” 173

超一流の武人であり、文人でもあった曹操の魅力 174

統率者としての器量——曹操のこのすばやい決断 175

関羽は傲慢で、扱いにくい人間だった！ 163

諸葛亮の「空城の計」は作り話 164

諸葛亮は虫の好かない同僚にどう対処したか？

諸葛亮は名軍師どころか軍略は不得手だった？ 166 165

軍師・諸葛亮の嫁の選び方 167

諸葛亮にはメカケがいた！ 168

司馬仲達が女房に頭が上がらなかった理由 168

劉禅の幼名“阿斗”はバカ殿の代名詞 170